

中 学 校

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

音

楽

東京都教育委員会

目 次

I 研究の概要

1 研究主題決定の理由	1
2 研究の視点	1
3 研究構想図	2

II 研究の内容

1 基礎研究	3
2 調査研究	4
3 開発研究	7
視点（１）互いに学び合うための学習活動の工夫	
視点（２）思いや意図を表現させるための指導の工夫	
4 実践事例	12
実践事例①	12
実践事例②	16
実践事例③	20

III 研究の成果と課題	24
--------------	----

研究主題

「生徒が主体的に表現する力の育成」

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会の答申では、音楽科の改善の基本方針について、音楽のよさや美しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育成することが重視されている。そのため、学習指導要領では表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視している。

また、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高めることを大切にしている。

平成24年度東京都教育研究員報告書（中学校・音楽）では「思考・判断・表現する学習活動の工夫」を研究の視点とし、生徒が自ら音や音楽のよさを知覚・感受したことを基に、表現に対する思いや意図をもち、音楽表現を工夫するための指導について研究している。

本研究員は、生徒に表現に対する思いや意図をもたせ、それを基に表現に必要な発声や発音、楽器の奏法や音楽をつくる技能、技能を身に付けるための方法等について指導している。平成24年度の研究の成果を踏まえ、発展させるためには、生徒自身に思いや意図を表現に結び付けるために必要な技能を獲得する方法に気付かせる発問や、学び合いを通して表現力を高めていく授業展開をすることが必要であると考えた。

そこで、本年度の研究主題を「生徒が主体的に表現する力の育成」と設定した。

生徒が主体的に表現する力を育成するためには、ペア学習、グループ学習、パート学習等を位置付け、視点を明確にした学習活動を行うようにすることが大切である。学習のねらいを達成するための具体的な実現目標に基づいた生徒相互の意見交換や自己の振り返りを行うことにより、常に学習のねらいを意識するとともに、自己の学習状況を認識し、表現力を高めていくことが大切である。

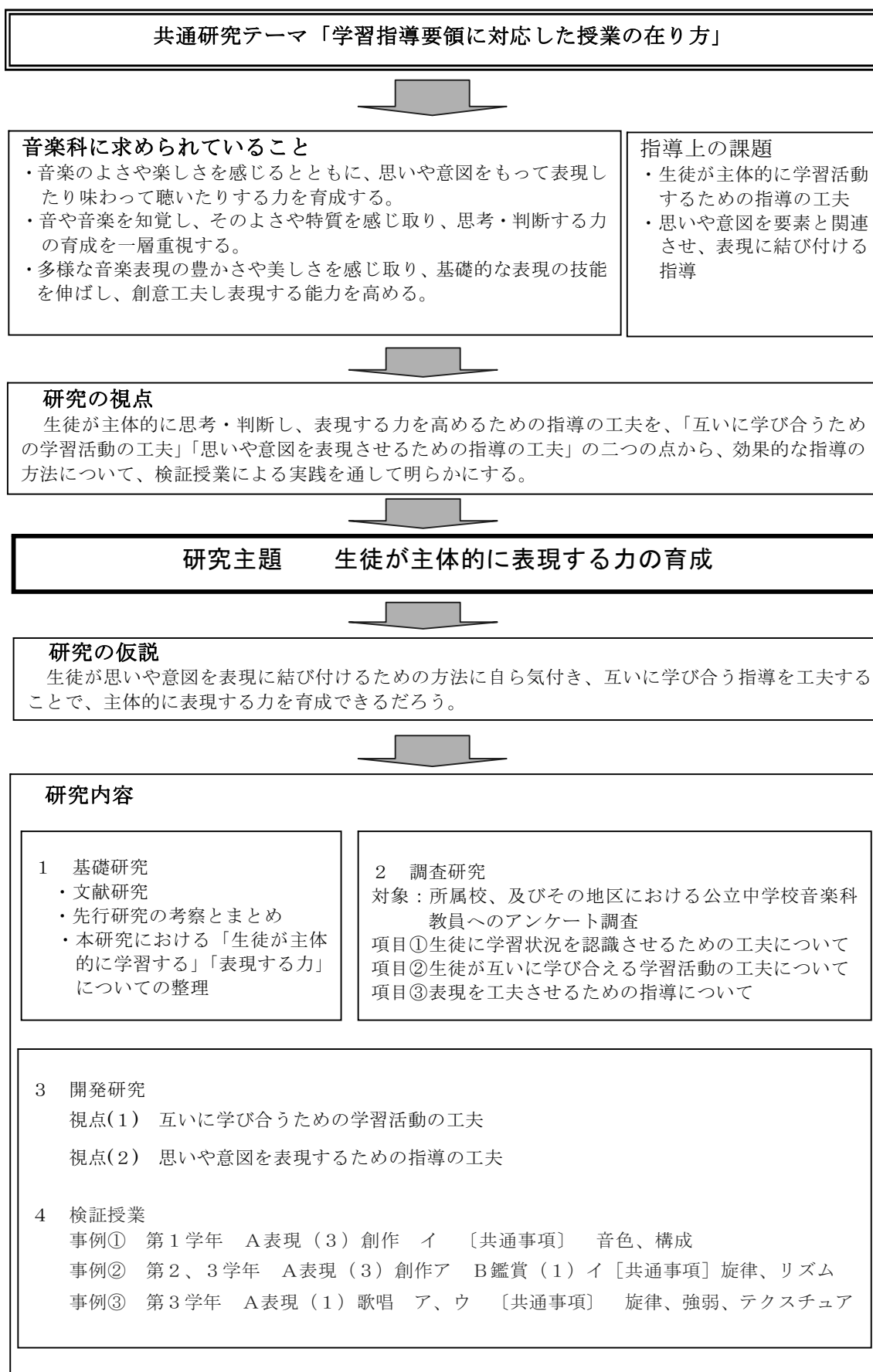
また、生徒自身が表現に対する思いや意図を表現に結び付けるために、教師は生徒に例等を示し、表現に必要な技能を獲得するための方法等について具体的に指導し、それを基に、生徒に表現の工夫をさせる必要がある。

以上の理由から、生徒が学習のねらいの達成に向けた学習方法を理解し、意見交換等を行い自己の学習状況を振り返り、自己認識しながら主体的に表現する力の育成を図るための研究を行うことにした。

2 研究の視点

生徒が主体的に思考・判断し、表現する力を高めるための指導の工夫を、「互いに学び合うための学習活動の工夫」「思いや意図を表現させるための指導の工夫」の二つの点から、効果的な指導の方法について、検証授業による実践を通して明らかにする。

2 研究構想図



Ⅱ 研究の内容

1 基礎研究

(1) 「生徒が主体的に学習する」ことの捉え方

音楽科の学習は、生徒が音や音楽の存在に気付き、それらを主体的に捉えることによって成立する。・・・生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうことにつながっていく。(中学校学習指導要領解説 音楽編 音楽科の目標 P 7～8)

また、適切な用語や記号などを用いて音楽の内容について解釈や説明をしたり、楽譜を書いて表したりそれを読み解いたりすることは、音楽を他者と共有するための基盤となり、結果として、一人一人の音楽に対する理解を深めていく。(中学校学習指導要領解説 音楽編 各領域及び〔共通事項〕の内容 P 21)

これらを踏まえて、本部会では、「生徒が主体的に学習すること」を、以下のように定義付けた。

音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を感じ取りながら、音楽表現を様々に試行錯誤し、表現に対する自らの思いや意図をもつ。そして、思いや意図を実現させるために必要な技能を身に付ける学習に主体的に取り組む。その過程で適切な用語や記号などを用いて振り返りや意見交換をすることにより、自分の学習状況を認識し、思考・判断しながら音楽の表現における技能に結び付けていくこと。

(2) 「表現する力」の捉え方

音楽活動を行うためには、音楽に対する用語や記号、楽譜、発声法や楽器の奏法などの知識や技能が必要となる。音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けることと結び付くことによって、音楽活動の基礎的な能力として意味をもつものとなる。(中学校学習指導要領解説 音楽編 音楽科の目標 P 8)

このように、生徒が感じ取ったことを声や楽器、楽譜などを使って表現するためには、技能が必要である。発声や発音、楽器の奏法、音楽をつくる技能などを獲得し、音楽に対する解釈やイメージ、曲想などを適切に表現することが重要となる。(中学校学習指導要領解説 音楽編 音楽科の目標 P 14)

これらを踏まえて、本部会では、「表現する力」を、以下のように定義付けた。

発声や発音、楽器の奏法、身体をコントロールし、姿勢、呼吸法、身体の動きを意識しながら思いや意図を表現するために、思考・判断する過程や結果を言語活動等で表す力。

また、こうした一連の活動の中で身に付けていく歌唱、器楽、創作で表す力としての音楽表現力。

2 調査研究

(1) 調査概要

- ア ね ら い 研究内容に関する指導の実態を把握し、効果的な指導の在り方の開発
イ 調査時期 平成25年9月
ウ 調査対象 都内4区6市3町における公立中学校音楽科担当教員
エ 調査方法 選択式によるアンケート用紙への回答（回答数86）
オ 調査項目

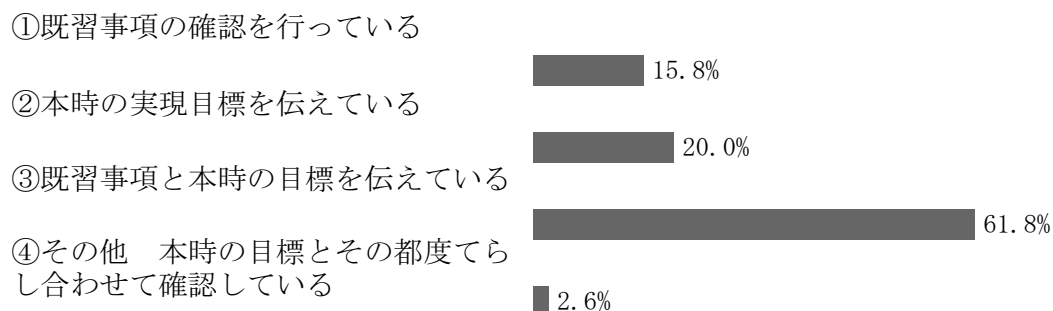
- 調査項目1 生徒に自分の学習状況を認識させるための工夫（1）（2）（3）
調査項目2 生徒が互いに学び合うための工夫
調査項目3 表現の工夫をするための学習方法

(2) 調査結果と考察

項目1 生徒に自分の学習状況を認識させるためにどのような工夫をしていますか。

（1）学習の導入の時間にはどのような工夫をしていますか。（該当する項目を一つ選択）

【結果】

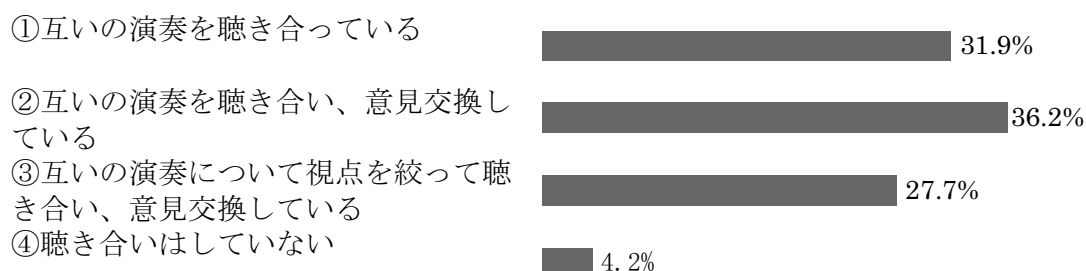


<考察>

③と回答した割合が、約6割にとどまっている。本題材または本時で学習する音楽を形づくっている要素を知覚・感受する力や、音楽表現につなげる技能の既習事項について確認する時間を設定することは、生徒の学習状況を把握する上で大切である。また、本時の目標を伝えることにより、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができる。

（2）学習の展開の時間にはどのような工夫をしていますか。（該当する項目を一つ選択）

【結果】

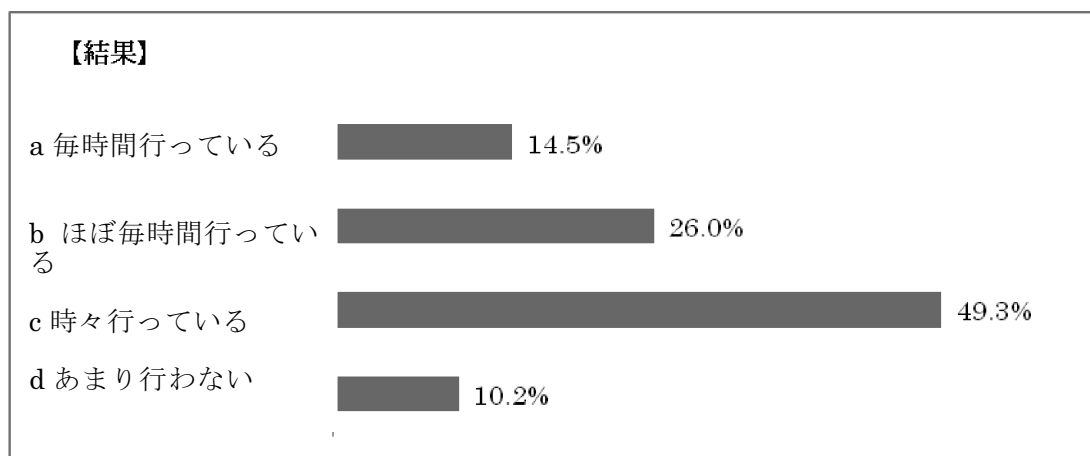


<考察>

互いの演奏を聴き合う学習活動は項目①②③を合わせて 95.8%の教師が行っている。しかし、項目②③より約 6 割の教師は演奏を聴いて意見交換させているが、視点を絞って演奏を聴き合う学習活動を設定している教師は 3 割に満たない。効果的な聴き合いをさせるために、教師は音楽を形づくっている要素や技能についてなど、学習の目標に即した意見交換をさせることが求められる。

(3) 学習のまとめの時間にどのような工夫をしていますか。(①②とも該当する一つを選択)

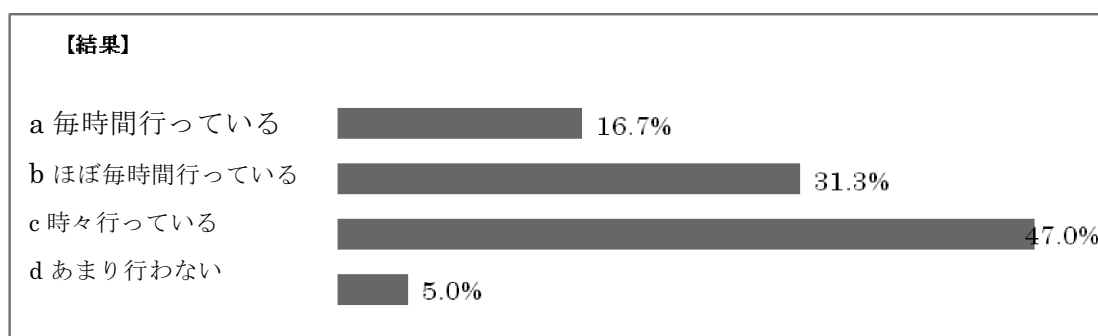
① 言葉や文章で感想をかかせたり、発表させたりする活動



<考察>

項目 a, b より毎時間又はほぼ毎時間学習のまとめを行っていると回答した教師は約 4 割にとどまっている。また、項目 d の「あまり行わない」の回答も約 1 割あった。1 時間の学習活動を通して学んだことや自己の課題等を生徒一人一人に意識付けるために、自分の言葉でワークシート等にかかせる、発言させる等の指導を行うことが大切である。

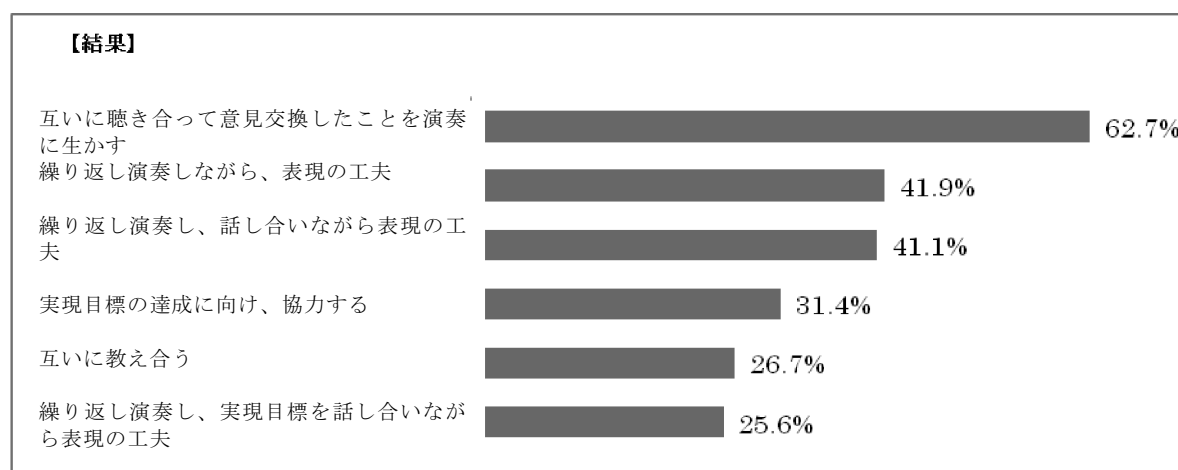
② 本時のねらいと照らし合わせた、ワークシートや問いかけによる学習状況の確認



<考察>

学習状況の確認を行っていると回答は 95%ある。しかし、項目の a, b より毎時間又は、ほぼ毎時間学習状況の確認ができていると回答した教師は、5 割に満たない。教師が生徒一人一人の学習状況を確認することにより、次時の指導方法や指導内容の改善へとつなげることができる。あわせて、生徒自身に自己の学習状況の振り返りをさせることにより、達成感や、課題意識をもたせることができる。

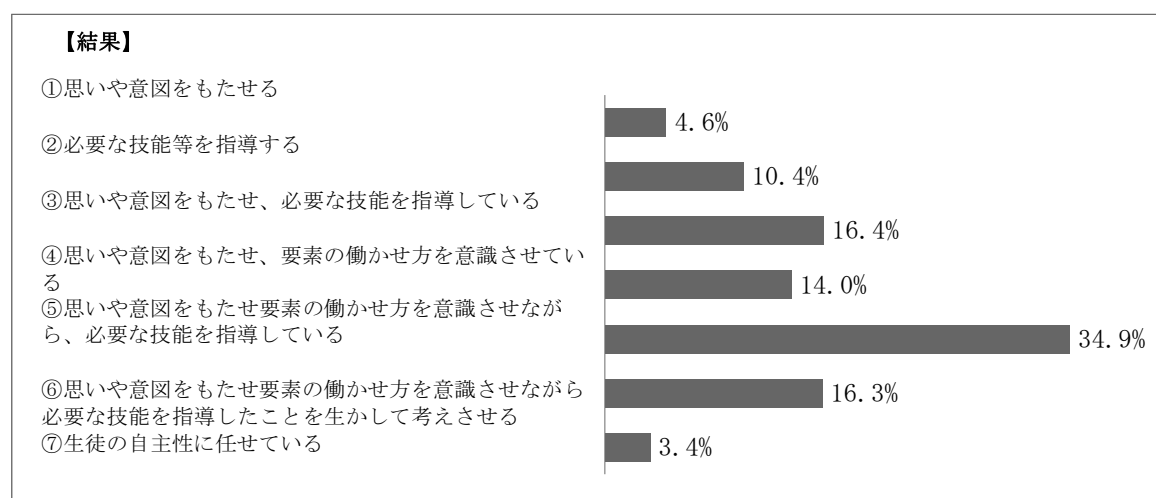
項目 2 生徒が学び合うためにどのような工夫をしていますか。(複数回答可)



<考察>

繰り返し演奏し話し合いながら表現の工夫をしている学校が 62.7%と多い。その反面、話し合いをする学校は 25.6%、教え合いをする学校は 26.7%と少ない。生徒相互に話し合いの視点や教え合う方法を示す等、実現目標の達成に向けた意識付けをする指導が求められる。

項目 3 表現の工夫をするために、どんな工夫をしていますか。(該当する項目一つを選択)



<考察>

①③～⑥より、表現するために思いや意図をもたせることが大切であると答えた学校が 86.2%と多い。しかし、要素の働かせ方を意識させたり、技能との結び付きについて生徒に考えさせたりしている割合は、16.3%にとどまっている。生徒自ら考えながら表現の工夫をしていく過程が大切である。そのために、教師は生徒が学んだことを生かして、思いや意図を表現するために必要な技能を自ら考える場を設定し、生徒に考えさせる発問を工夫することが大切である。

3 開発研究

視点（１）互いに学び合うための学習活動の工夫

調査研究より、生徒が主体的に学習を行うためには、生徒が相互に学び合う学習活動、自己の学習状況を認識しながら表現力を高めていく学習過程を工夫することが大切であると考えた。

そこで、第一に「生徒が互いに学び合うための学習活動の進め方」について整理した（図１）。生徒が相互に学び合う学習活動を設定する際、教師は事前に学習を進める手順や、一つ一つの学習活動の意義や視点について説明する。また、グループやパート等で学習を進める際には、リーダーに学習の進め方を指導する。説明した内容は、黒板等に板書または掲示する。

図１ 生徒が相互に学び合う学習活動の進め方（例）

- 学習の進め方を指導する。（グループやパート学習の場合、リーダーへ具体的に指導する。）

- ①中間発表の仕方
 - ・グループ同士で向かい合い、互いの演奏を集中して聴き合う。
 - ・音楽のテーマとイメージを伝える。
 - ・演奏の合図を出す。
- ②意見交換の仕方
 - ・付箋紙に記入する。
良かった点→赤色 アドバイス→黄色
- ③修正点の話合い方、音楽の仕上げ方

- 意見交換をする。①

- ・視点を示してグループ相互に聴き合う。
- ・視点に即して良かった点、アドバイスを伝え合う。

- 意見交換したことを参考にして、表現に生かす。

- ・良かった点・・・更に工夫できる点を話し合う。
- ・アドバイス・・・どのように表現に生かすか、話し合う。
- ・話し合ったことを基に、表現する。

- 意見交換をする。②

- ・再度グループ相互に聴き合い、前回の表現から改善した表現について確認し合う。

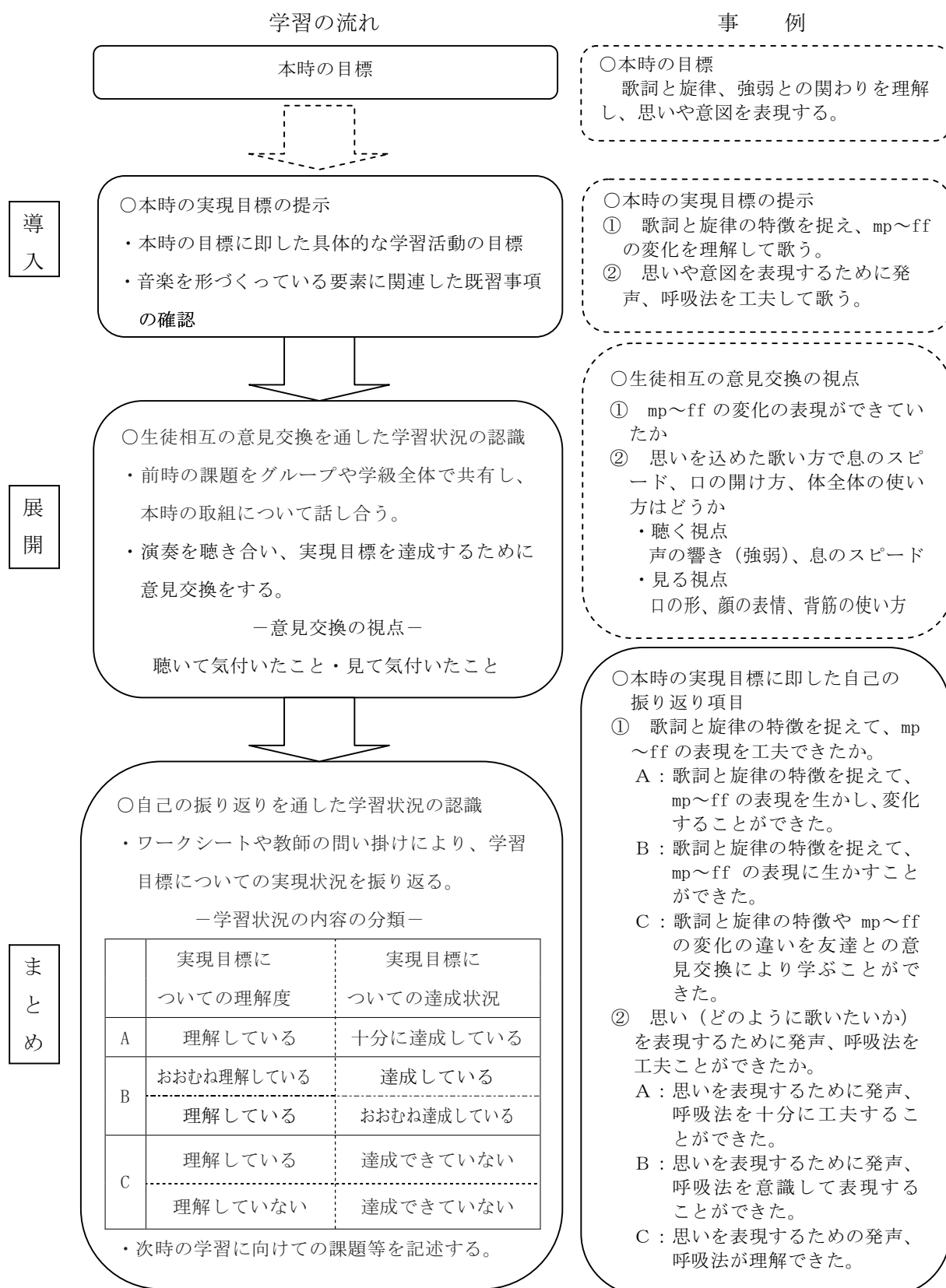
- 成果を共有する。

- ・学級全体で各グループの取組と成果を伝え合う。

第二に、「自己認識を通して表現力を高める学習過程」を設定した。生徒は、学習のねらいを達成するために、音楽を形づくっている要素の特徴を知覚・感受したこと、表現についての思いや意図、表現の技能等について相互に意見交換をするとともに、自己の学習を振り返りながら学習状況を認識し、それらを関連付けながら表現力を高めていく。(図2)

図2

自己認識を通して表現力を高める学習過程



視点（２）思いや意図を表現させる指導の工夫

思いや意図をもち、それを音楽で表現できるようにするために、第一に教師は必要となる技能について指導し、生徒は学んだ技能と自分の表現したい思いや意図を比較しながら試行錯誤し、表現に必要な技能を身に付けていく指導を行う。その際、生徒が思いや意図と技能を結び付ける際に判断する指針となる、視覚的な提示方法を工夫した。（図３、図４）

図３ 〈旋律の移り変わりに応じた強弱の変化を視覚化した歌唱指導の例〉

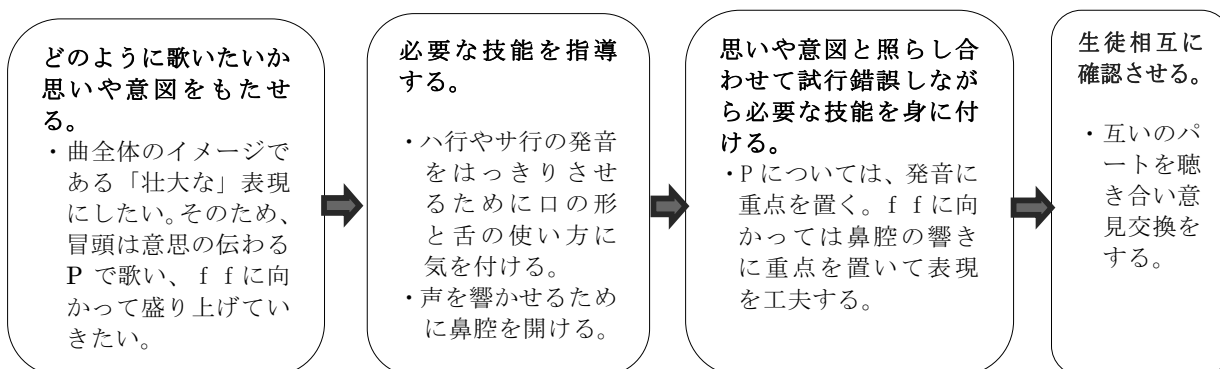
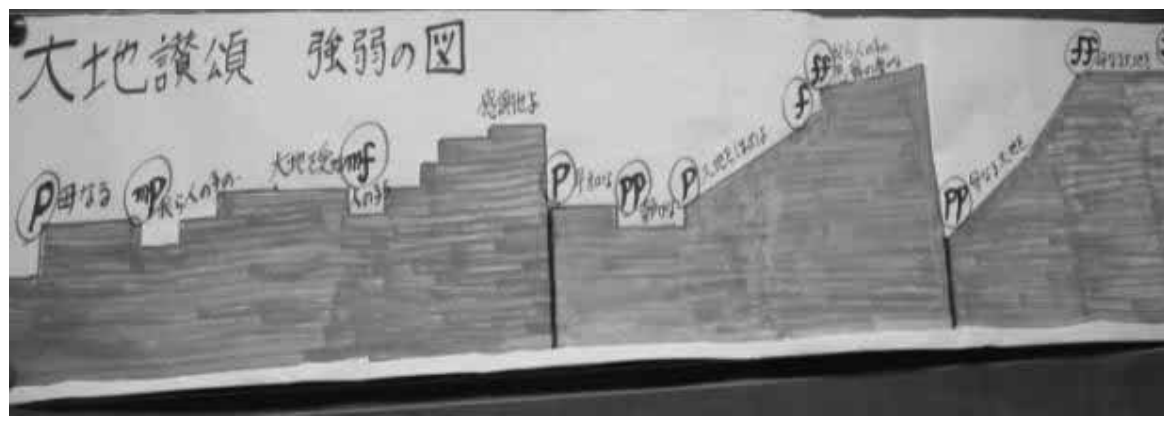
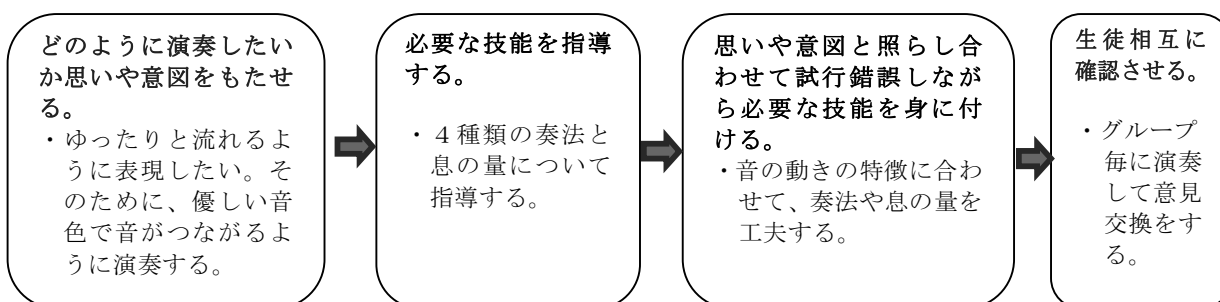


図４ 〈旋律の特徴を視覚化した器楽指導の例〉



第二に、音楽を形づくっている要素の特徴を知覚・感受し、音楽表現に結び付けるために、

教材を分析し、生徒が思考・判断・表現する際の視点を与える発問を整理した。

音楽を形づくっている要素に関連付けて思考・判断・表現させるための発問（例）

要素	学習内容	着目点	知覚・感受させるための工夫	
			知覚感受させる方法	知覚感受させるための発問
音色	創作	楽器の音色	・教師の範奏から音色の特徴を感じ取り、イメージを想起させる。	T：この鉄琴の音色から、何をイメージしますか。 S：ロールの奏法で演奏しているので、水が湧き出てくるように感じる。
構成	創作	反復・対照	・反復や対照となるモチーフの例を聴き取り、構成を想起する。	T：この旋律は、音の動きにどのような特徴がありますか。 S：同じ旋律が上行、下行している。 T：どのように感じますか。 S：遠ざかったり近付いたりする感じ。
強弱	歌唱	旋律のもつ方向性	・拡大楽譜や構造図を使い視覚的にイメージさせる。 ・歌詞や旋律の音型からイメージに合った強弱を、範唱により比較させる。	T：（強弱の変化を構造的に表した図を参考に音楽を聴かせ）「大地讃頌」には、どのような強弱の特徴がありますか。 S：3つの曲の山があり、曲の最後に向かってだんだん盛り上がっていきます。
旋律	歌唱	歌詞との関わり	・同じリズムで同じ歌詞を繰り返していることを拡大楽譜により気付かせる。 ・旋律の出だしの音符を2種類示し感じ方の比較をさせる。	T：同じ言葉を繰り返し音の高さが上がっていくと、どのように感じますか。 S：気持ちが盛り上がる。 T：曲の出だしが8分音符と16分音符ではどちらが鋭い感じがしますか。 S：16分音符の方が鋭い感じ。
リズム	創作	こぶし・三連符	・拡大楽譜を見ながら範奏に合わせて手拍子をしてリズムの特徴を感じ取らせる。	T：「ショメ節」のリズムには、どのような特徴がありますか。 S：三連符がある。ゆったりとした2拍子。
テクスチャ	歌唱	声部の役割	・拡大楽譜を提示し、ユニゾンやハーモニー、掛け合いの部分の色分けして視覚的にイメージさせる。 ・教師が範奏してそれぞれの役割の違いを感じ取らせる。	T：ソプラノ、アルト、テノールがハーモニーで同じ動きをしているが、バスは一音を伸ばしている。このときバスにはどのような役割がありますか。 S：上の3パートを支える役割がある。

T...教師の発問 S...予想する生徒の反応

思いや意図をもたせるための工夫		技能の指導	
思いや意図をもたせる方法	思いや意図をもたせるための発問	技能についての指導内容（教える）	技能と思いや意図を結び付けさせる発問（考えさせる）
・表現したいモチーフのイメージと、イメージに合う楽器を考えさせる。	T：表現したいイメージを想像し、イメージに合う楽器の音色を考えましょう。 S：川岸の静かな波のイメージを、鉄琴の音色で表現したい。	・奏法 ⇒旋律、和音、グリッサンド、ロール、トリル	T：イメージした情景を音色で表現するために、楽器と奏法をどのように工夫するとよいですか。 S：川岸の静かな波が寄せる音色を表現するために、鉄琴のロールで柔らかい音色で表現する。
・表現したいイメージのモチーフを基に、反復対照などの構成の仕方を工夫させる。	T：表現したいイメージを表すには、どのような構成にするとよいですか。 S：川岸で波が寄せては返す様子を対照で表現するとよいと思う。	・モチーフの作り方 ⇒旋律、和音、グリッサンド、ロール、トリル ・反復・対照のさせ方 □つくったモチーフを、イメージに合わせて構成させる。	T：イメージした情景を表現するために、反復や対照をどのように入れるとよいですか。 S：川岸で波が寄せては返す様子は、旋律の対照で表現する。
・歌詞と旋律の関わりを拡大楽譜で提示し、作者の思いを感じ取り、どのように歌うか意見交換させる。	T：どのように強弱をつけて歌いますか。 S：クレシェンドする。 T：なぜですか。 S：旋律の音がだんだん高くなっていくので、盛り上がる感じがするから。	・発声 ・発音 ・鼻腔の響き ・身体の使い方、支え	T：出だしの p の部分は、発音や声の響きをどのように工夫して歌えばよいでしょう。 S：意志のある p を表現したいから、歌詞の発音をはっきりする。ほお骨を上げて声を響かせる。
・実際の楽譜とそうでない場合の楽譜を示し、範唱して比較し、イメージをもたせる。	T：なだらかな旋律と跳躍する旋律はどのような想いを表現するのに適していますか。 S：優しい気持ち、明るく晴れやかな気持ち、決意	・高い音を出すための身体の使い方、息のスピード、響かす方向、顔の表情、喉の奥の開き方、息のため方等。	T：跳躍する旋律を響かせるためには、どのように身体を使ったらよいでしょう。 S：背筋を外に引っ張る。喉の奥を深く開き、額を上を広げるように歌う。
・表現したい音楽の情景をイメージと、イメージに合わせて、こぶしを入れる場所や回数について考えさせる。	T：表現したい場面をイメージし、三連符やこぶしを入れる場所や回数を工夫しましょう。 S：1日の出来事を思い出すような音楽にするために、タータの三連符にする。こぶしは、曲の終わりの方に入れる。	・三連符、こぶし（装飾音）の入れ方。 ⇒三連符：タータまたはタカタのリズム こぶし：タータのリズムの後に入れ、16分音符で音を上下させる。	S1：1日の出来事を思い出すような音楽にするために、タータの伸ばすリズムを使った。 S2：淋しい感じがするので、タカタのリズムも入れたほうが良いと思う。
・各声部の動きが分かる楽譜を提示し、どのように歌うと声部ごとの役割が表現できるか考えさせる。	T：「人の子ら」と1パートずつ入るときどのように歌うと曲の効果を出せると思いますか。 S：出だしをはっきり発音し、他のパートは抑える。	・声部の役割（主旋律・対旋律・ハーモニー・支え）と曲全体の響きとの関わり。それぞれの役割を表現するのにふさわしい強弱、発音等の身体の使い方。	T：声部の役割を明確にするために、歌詞の出だしの発音をはっきり聴かせる息の出し方を考えてみましょう。 S：息のスピードを速くする。息を当てる場所に気を付けた口の形を工夫する。

4 実践事例

実践事例① 第1学年 A表現（3）創作イ 【共通事項】音色、構成

1 題材名 「いろいろな音を見つけて、青梅の自然を音楽で表そう」（4時間扱い）

2 題材の目標

- ア 音素材の特徴、反復、対照などの構成に関心をもち、音楽表現を工夫しながら、音楽をつくる学習に主体的に取り組む。
- イ 音色、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取って、反復、対照などの構成を創意工夫する。
- ウ 音素材、反復、対照などの構成を生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて音楽をつくる。

3 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
①楽器の音の特徴や、音を音楽に構成する反復・対照に関心をもち、音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、 ②音楽で表現したい青梅の自然についてのイメージをもち、音素材の特徴を感じ取って反復、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	①楽器の音色の特徴、反復、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方を身に付けて音楽をつくらしている。

4 題材観

本題材は、学習指導要領第1学年の内容A表現（3）創作イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」を実現するための題材である。

青梅市は、鳥のさえずり、風の音、木の葉が揺れる音、虫の鳴き声、川のせせらぎ等、四季折々の自然の音を味わうことができる。中でも、御岳山と多摩川は、雄大な景色とともに、ハイキングやカヌー等を楽しむことができ、毎年多くの観光客が訪れている。

本題材では、身近な楽器を様々な奏法で演奏することにより、音色の変化を知覚・感受し、そこから御岳山や多摩川の生き物や情景等をイメージする。また、既習のビバルディの四季「春」の鑑賞の際に学んだ反復、わらべうたの歌唱の際に学んだ対照の構成について知覚・感受し、表現したいイメージに合う楽器の音色や構成を考えさせ、音楽をつくる。

5 本題材における具体的な指導の工夫

（1）互いに学び合うための学習活動の工夫

- ・リーダーにグループ学習の進め方を指導し、生徒が相互に話し合いながら主体的に音楽をつくる学習活動を設定する。
- ・ペアグループにより音楽を聴き合い、よかった点やアドバイスを付箋紙に書いて、意見交換を行い、演奏に生かす。

（2）思いや意図を表現するための指導の工夫

- ・表現したいイメージと、それに合うモチーフの作り方の例や構成（反復や対照）について、アドバイスを提示する。

6 指導と評価の計画（全4時間扱い）

	ねらい	○学習内容・学習活動【評価】	指導の工夫
第1時	音素材の特徴からイメージを想起し、反復・対照等の構成や、音楽をつくる学習に関心をもつ。	○楽器の音色から、情景等のイメージを想起し、反復・対照等の構成や音楽をつくる学習に関心をもつ。 ・4人ずつ1グループで活動する。 ・一つの楽器で様々な奏法を試し、イメージを広げる。 ○青梅の自然（多摩川・御岳）に対する情景のイメージを膨らませる。 ・ウェイピング図を書き、イメージを広げる。 ・グループでイメージを伝え合い、音楽のテーマを決める。 【観点ア① 活動観察・ワークシート】	・音色や構成を知覚感受するためのアドバイスシートを掲示する。 リーダーへの指導内容 ①楽器の扱い方 ②テーマを決める際の話し合いの進め方 ・多摩川や御岳の写真を提示しながら、遠足などの生活体験を想起させ、イメージを広げやすくする。
第2時	構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。	○反復、対照の構成を理解する。 ・反復、対照について知覚・感受する。 反復：ビバルディ 四季「春」 対照：わらべうた「かくれんぼ」 ・反復、対照について、理解する。 反復：①旋律②リズム 対照：①旋律②音の高低③リズム ○表現したいテーマの情景や生き物等の基本モチーフをつくる。 ・イメージと合う音色の楽器、リズムを考える。 【観点イ① 活動観察・ワークシート】	・既習の鑑賞曲やわらべうたを通して、反復、対照を知覚・感受させる。 ・基本のリズムを提示し、それを基に旋律やリズム、音の高低を変化させる ・モチーフの作り方と構成についてのアドバイスシートを掲示する。 リーダーへの指導内容 ①楽器の調整の仕方 ②モチーフのつくり方
第3時	音素材や反復、対照など構成の特徴を捉えて創意工夫し、音楽をつくることについての思いや意図をもつ。	○楽器の様々な音色と、反復や対照の構成を生かして創意工夫し、どのように音楽をつくるかについて思い意図をもつ。 ・一人一人がつくったモチーフを基に、グループで、反復や対照の構成を工夫しながら音楽をつくる。 ・実際に演奏し確かめながらつくる。 【観点イ② 活動観察・ワークシート】	・図形楽譜の記入例を黒板に掲示する。 ・図形楽譜に記入しながら、思いや意図を、音色や反復、対照と結び付ける。 リーダーへの指導内容 ①モチーフの組合せ方 ②反復、対照の使い方
第4時 (本時)	楽器の音色や反復、対照など構成の特徴を生かした音の組合せ方を身に付けて音楽をつくる。	○楽器の音色や奏法による様々な音色と反復や対照の特徴を生かし、思い意図を表現する。 ・2班ずつがペアになり、中間発表をする。 ・互いの演奏を聴き、意見交換をする。 ・意見交換したことを演奏に生かす。 ・本発表を行い、再度互いの演奏を聴く ・再度意見交換をする。 ・学級全体で感想を伝え合う。 【観点ウ① 活動観察・ワークシート、作品】	・聴き合いの視点を絞り、良い点とアドバイスについて意見交換（付箋記入）をさせる。 リーダーへの指導内容 ①中間発表の仕方 ②意見交換したことを演奏に生かす方法 ③本発表の仕方

7 本時の展開（全4時間中の4時間目）

（1）本時の目標

楽器の音色や反復、対照など構成の特徴を生かした音の組合せ方を身に付けて音楽をつくる。

（2）本時の展開

○学習内容 ・ 学習活動		□指導上の留意点【評価規準】（評価方法）
導 入	○本時の学習内容を知る。	◇本時の実現目標と前時の既習事項を確認する。
	ー本時の実現目標ー ①イメージに合う楽器の音色で、反復や対照の特徴を生かして音楽を完成させる。 ②ペアグループで互いの演奏を聴き合い、付箋に意見を書いて伝えたり、アドバイスを生かして音楽をつくったりする。	
展 開	○2グループずつのペアになり、互いに中間発表をする。 ・付箋紙を使用し、意見交換をする。	
	ー実現目標に即した意見交換の視点ー ①イメージに合う楽器の音色である。 ②反復または対照の特徴を生かした音楽である。	ーリーダーへの指導内容ー ①中間発表の仕方 ・グループ同士で向かい合い、互いの演奏を集中して聴き合う。 ・音楽のテーマとイメージを伝える。 ・演奏の合図を出して演奏する。 ②意見交換の仕方 ・付箋は、良かった点→赤色 アドバイス→黄色 に記入する。 ③アドバイスを参考に、音楽を完成させる
	リーダー 情景のイメージが伝わる奏法で表現できていますか。	
	生徒1 多摩川の川岸で静かな風が吹く様子は、金属でできた楽器をロールの奏法で演奏した方が良いと思います。	
リーダー 反復や対照の構成の工夫が分かりましたか。また、工夫の仕方から、表現したい情景のイメージが伝わってきましたか。		
開	生徒2 御岳の朝焼けの空の色がだんだん変わっていく様子が、反復を使用し表現されていて良かった。	ーリーダーへの指導内容ー ・グループの意見をまとめ、自分たちの表現したい内容を更に高められるか判断する。 ・作品全体のバランスを考えて完成させる。
	○意見交換したことを演奏に生かす。 ・グループで創意工夫する。 ・アドバイスされた内容を試奏し、グループ内で比較検討する。	
	リーダー 風の吹く様子を、金属の楽器を使い、ロール奏法で演奏したらどうかという意見がありますが、どのような演奏がよいですか。	

	生徒3 音を小さくして、ロールを細かくすると静かな風のイメージが表現できると思います。 リーダー 朝焼けの色が変化している反復の様子が良いという意見がありましたが、更に工夫することはできますか。 生徒4 音量をだんだん強くしたり、高さを上げたりしていくと夜が明けていく感じがすると思います。 ○グループで本発表をする。 生徒5 中間発表に比べて、多摩川の風のイメージや、夜が明けていく情景が伝わりました。	 楽器の音色の特徴、反復、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方を身に付けて音楽をつくっている。 【観点ウ①】 (活動観察、ワークシート、作品)
ま と め	○本時の内容を振り返る。 ・学級全体で、発表の成果を共有する。 ・自己の振り返りをする。 〈生徒の感想〉 ・イメージを楽器の音色で表現することは難しかったが、音にも色々な表情があることが分かった。 ・音楽が反復で構成されることは知っていたが、対照で構成されることを初めて知った。 ・青梅の自然の情景が楽器で表現でき面白かった。 ・自己の振り返りシートに実現目標が書かれており、毎時間の学習目標がよく理解できた。 ・創作は初めてのことだったが、リーダーがまとめてくれ、協力し行うことができた。	・題材全体の学習のまとめとして、感想もかせる。

8 生徒の変容

《事前アンケートより》 ・反復の意味を理解している生徒：約6割 ・対照の意味を理解している生徒：ほとんどの生徒は学習経験なし。 ・楽器の奏法を工夫しながら創作した経験がある生徒：約2割。 ・イメージしたことを楽器の音色で表した経験がある生徒：ほとんどの生徒は学習経験なし。 《事後のアンケート》 ・反復の意味を理解し、創作に生かすことができた生徒：約7割 ・対照の意味を理解し、創作に生かすことができた生徒：約6割 ※本題材では、反復か対照の構成の両方またはどちらか一方を、創作に生かすようにした。 ・楽器の奏法を工夫し、創作に生かすことができた生徒：6割 ・イメージを楽器の音色で表現できた生徒：6割 《成果と課題》 ・音色、構成、奏法、リズムなどのアドバイスシートを用いることで、音色や構成の学習の手掛かりを得ることができた。また、図形楽譜を用いることで、記譜の仕方が容易になり、音楽を創る学習に時間をかけることができた。 ・リーダーに、グループ学習の進め方等を指導することで、グループで学習の目的が明確になり、生徒の主体的な活動が促されるようになった。 ・モチーフを対照に構成する際に、つまずく生徒の姿が見られた。グループ学習を始める前に、提示したリズムを対照に変化させる指導、イメージした物の様子の特徴を捉えて対照に結び付ける指導を、十分に経験させる必要があるということが分かった。	
--	--

実践事例② 第2、3学年 A表現(3)創作ア B鑑賞(1)イ[共通事項]旋律、リズム

1 題材名 「八丈島に伝わる音楽に親しみ、旋律をつくろう」(4時間扱い)

2 題材の目標

ア 郷土の伝統音楽の五音音階や三連符、こぶし等の特徴と、その背景となる生活風土・歴史に関心をもち主体的に鑑賞し、音階やリズムを生かして旋律をつくる学習に主体的に取り組む。

イ 五音音階や三連符、こぶし等を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、その背景となる生活風土・歴史と関連付けて理解して音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。

ウ 五音音階や三連符、こぶし等の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、簡単な旋律をつくる。

◎ 教材名 「ショメ節」「八丈島の伝統音楽」

3 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能	エ鑑賞の能力
①郷土の伝統音楽の特徴とその背景となる生活風土・歴史に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②構成音、リズムによって生み出される独特な雰囲気などに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律・リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、五音音階や三連符、こぶし等の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①5音音階と三連符、こぶしのリズムの特徴を生かした音楽表現をするために音の組合せ方、記譜の仕方を身に付け、簡単な旋律をつくっている。	①旋律・リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、その背景となる生活風土・歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

4 題材観

本題材は、学習指導要領第2、3学年の内容A表現 創作ア「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」、B鑑賞 イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること」を実現するための題材である。

八丈島には八丈太鼓、ショメ節などの伝統音楽が今でも継承されている。中でも、ショメ節は代表的な民謡であり、5音(C D F G A)の音階で構成されており、リズムは、四分の二拍子であるが、四分の四拍子のものもある。「ヨー。」という歌いだしと、後囃子のショメショメがこの歌の特色で全体の調子は極めて悠長であり、東京都の文化財にもなっている。地区により節回しが違っており、歌う人によって歌詞や旋律、リズムが多少変化する。歌う人の気分で、間の取り方や節回し等が微妙に変化する。即興でその場にふさわしい詞を当てて歌うが、そんな歌詞の中から多くの人々の共感を得た詞は好まれて度々歌われるため、古くからの歌詞が数多く残っており、今もなお歌い続けられている。

郷土の伝統音楽を理解し、五音音階、三連符等の特徴を生かした旋律をつくることで、自分たちの住んでいる八丈島の民謡をより身近なものとして感じられることをねらいとした。

5 本題材における具体的な指導の工夫

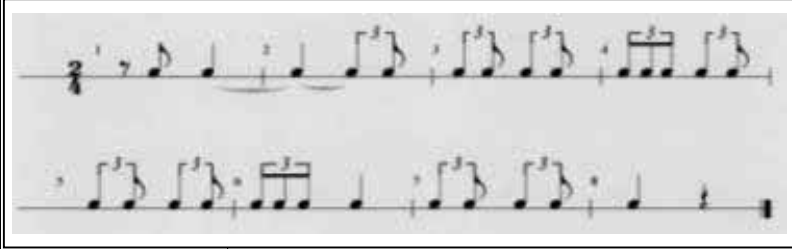
(1) 互いに学び合うための学習活動の工夫

- ・ペアになり、互いに創作した旋律の演奏を聴き、教え合う。

(2) 思いや意図を表現させる指導の工夫

- ・拡大楽譜により可視化して鑑賞させ、旋律やリズムの特徴を読み取らせる。

6 指導計画と評価の計画（全4時間扱い）

	ねらい	○学習内容・学習活動【評価】	指導の工夫
第1時	伝統音楽の特徴に興味・関心をもち、主体的に八丈島の民謡を聴き、よさなどを味わう。	○郷土の民謡を鑑賞する。 ・八丈島の民謡の音楽の特徴について話し合う。八丈島の当時の暮らしや時代について知り、それらが楽曲にもたらしている特徴を考える。 ◎いつぐらいにつくられたか ・歌そのものは、江戸時代から歌われた甚句形式のものがあつた。 ◎どんな人が広めていったのか ・御用船（官船）や通用船（私船）、漂着船の船乗りが伝えたものが多い。 ◎どんな時に歌われたのか ・宴会、盆踊、月見踊などで歌われたり、踊られたりしていた。 ◎「ショメ」の由来 ・ショメとは囃子詞であり、昔は「ヒチャヒチャ」と歌っていた。ショメ豆（塩め豆）が元で、それがショメに転化したという説がある。 ○ショメ節についてリズムや旋律の特徴を感じ取る。 ◎リズム ・4分の2拍子である。三連符が使われている。 ◎旋律 ・律音階（C D F G Aの5音のみ使われている）。C D F G Aの音階が順につながっている。 【観点ア① 観察】 【観点エ① ワークシート】	・CDを準備したり、教員が模範唱をする。また、使われている音を拡大楽譜に示し、特定の音のみが使われていることに気付かせる。 ・民謡がつくられた時代やどのように民謡が誕生したのかを紹介する。 【考えさせる視点】 ・時代背景を理解した上で、ショメ節の特徴と結び付け、旋律やリズムについても、その特徴が表れていることに気付かせる。 【予想される反応】 ・ゆったりとした4分の2拍子であるため、自分の思いを歌に込めて歌いやすい。 ・三連符があるので、弾んだ感じがする。楽しいときに歌ったりしたからではないか。
第2時	ショメ節で使われている5音を使って旋律をつくる。	○ショメ節で使われている、C, D, F, G, Aの音のみを使い、アルトリコーダーで旋律をつくる。 ・C D F G Aの音を順に使って旋律をつくる。 ・低い音から始め、音高を上げていくようにつくる。 ・ショメ節の最初の音はGから始まっているので、最初の音をGから始める。 ・リズムは4分の2拍子でつくる。 ・8小節の旋律をつくる。 ・ショメ節のリズムパターンでつくる。  【観点ア② ワークシート、観察】	・5音階を拡大楽譜で掲示しておく。 ・最後の音はDで終わるように指示をする。 ・拍子については、2拍子で、ショメ節のリズムパターンを提示しておき、そのリズムに旋律を即興的につけていくようにする。 ・拡大楽譜を準備し、ワークシートも同じものを準備する。

第3時 (本時)	自分がつくった旋律を創意工夫する。	○ショメ節の特徴を生かして、旋律を創意工夫する。 ・ショメ節をもう一度鑑賞し、つくった旋律（こぶしの特徴を生かした装飾音や三連符）と聴き比べる。 ・表現のイメージをもち、こぶしや三連符を入れる場所や回数を創意工夫する。 ・ペアになり自分のつくった旋律を互いに聴き合い、教え合う。 【観点イ① 観察、ワークシート】	・ショメ節をもう一度鑑賞し、自分の旋律と比べて、リズムを工夫させる。 ・ペアで聴き合う際、聴き合う視点を揭示し、互いにアドバイスしやすくする。
第4時	アドバイスを基に、更に工夫して旋律を創作する。	○自分のつくった旋律をアルトリコーダーで演奏する。 ・アドバイスをもとに、旋律を工夫する。 ・もう一度、ペアで演奏し合う。 【観点ウ① 作品】	・前時のアドバイスを生かして、創意工夫する。

7 本時の展開（全4時間中の3時間目）

ア 本時の目標 ショメ節のリズムの特徴を生かして創意工夫して旋律を創作する。

イ 本時の展開

	○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点【評価規準】・（評価方法）
導入	○本時の学習内容を知る。 ・前時に創作したC, D, F, G, Aの5音を使った旋律をアルトリコーダーで演奏する。	◇前時までの内容を振り返り、本時の目標を確認する。 ◇本時の目標について板書し、創意工夫についての説明をする。
展開	一本時の実現目標一 自分のイメージに合う旋律にするために、こぶしや三連符のリズムを用いて創意工夫しよう。	
	○ショメ節の特徴を生かして、自分の創作した旋律を創意工夫する。 ・こぶしが入っている。 ・三連符でつながれている音は、跳躍していない。なめらかに聴こえる。 ・タータのリズムの後に出てくる。 ・16分音符のリズムで音を上下している。 	◇拡大楽譜を示して、三連符とこぶしの特徴について、視覚的に生徒に気付かせる。 発問① ショメ節を再度聴き、旋律やリズムの特徴を聴き取りましょう。 発問② こぶしが使われている部分には、どのような特徴がありますか。 〈三連符の特徴〉 ・2種類の三連符（タカタのリズム、タータのリズム）が使われている。 〈こぶしの特徴〉 ・装飾音として表現されている。 ・最初の音を伸ばしている三連符（タータのリズム）の後に使われている。 ・16分音符、初めの音を上げて、次の音を下げている。

	・創った旋律に、三連符を基本とするリズム、こぶしを入れて創意工夫する。 ・1日の出来事を思い出すような音楽にしたい。そのために、タータの伸ばすリズムで創作する。こぶしは曲の終わりの方で入れる。 ○ペアになり自分のつくった旋律を互いに聴き合い、教え合う。 タータのリズムだけでは淋しい感じがするので、タカタのリズムも入れたほうがいいと思う。 	発問③ 表現したい場面をイメージし、三連符やこぶしを入れる場所や回数を生かして創意工夫しましょう。 〈音楽を創作するための約束〉 ・三連符：タータまたはタカタのリズムを入れる。 ・こぶし：タータのリズムの後に入れ、16分音符で、音を上下させる。 ◇教え合いの視点を基に、アドバイスする。 —実現目標に即した教え合いの視点— ・自分のイメージに合うように、三連符や装飾音を入れる場所や回数を工夫している。 ◇ペアの生徒からアドバイスを受けたことを生かして、旋律を工夫させる。 【観点イ①】（ワークシート 観察）
まとめ	○本時の内容を振り返る。 ・振り返りカードに記入する。 —本時の実現目標に即した自己の振り返り項目— A：イメージに合うように、ショメ節のリズムの特徴を生かし、こぶしや、三連符を用い、創意工夫できた。 B：イメージに合うように、ショメ節のリズムの特徴を生かし、こぶし又は三連符を用い、創意工夫できた。 C：表現したい場面をイメージすることができた。	◇本時の実現目標について、自己の学習状況の振り返りをさせる。 —本時のまとめ ・次時は作品を完成させて、互いに聴き合う。

8 生徒の変容

- ・拡大楽譜での可視化、発問の工夫により、創作をする前の段階の鑑賞する部分で、85%以上の生徒がリズムや旋律の特徴を感じ取ることができた。また、リズムや旋律を感じ取ることができたことで、自分の旋律づくりにリズムや旋律を生かすことができた。
- ・ペア学習を取り入れ、互いに教え合う際、教え合いの視点を示しておくことにより、意見を言うことが苦手な生徒も、相手の演奏をしっかりと聴き、三連符やこぶしの入れ方について、アドバイスすることができた。

生徒の作品



実践事例③ 第3学年 A表現（1）歌唱 ア、ウ〔共通事項〕旋律、テクスチュア、強弱

1 題材名 「歌詞の内容や曲想を感じ取り、旋律の流れとテクスチュア、強弱との関わりを表現に生かして歌唱しよう」（5時間扱い）

2 題材の目標

ア 歌詞の内容（歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情）や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、強弱を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。

イ 歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように歌うか思いや意図をもつ。

ウ 曲にふさわしい表現をするために必要な発声、呼吸法を身に付けて歌う。

◎ 教材名 混声三部合唱「名づけられた葉」（新川 和恵 作詞/ 飯沼 信義 作曲）

3 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
①歌詞の内容（歌詞が表す情景や心情）や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組んでいる。	①旋律、強弱、テクスチュアなど音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 ②発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解してそれらを生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うか、思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想を生かして強弱などを工夫し、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声、発音）を身に付けて歌っている。 ②主な旋律や副次的な旋律、伴奏の響きを聴きながら、自分の声を全体に調和させて合唱をしている。

4 題材観

本題材は学習指導要領第2，3年の内容A表現（1）歌唱ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。」及びウ「声部の役割との関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」を実現するための題材である。歌詞の内容から曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、創意工夫して表現することをねらいとした。

本年度の本校の合唱コンクールのテーマは「Do Our Best! ～情熱・響・感動～」である。例年第3学年は「魂の合唱を創り上げよう」を目標に取り組んでいる。歌詞の意味と結び付けた強弱、パートリーダーを生かした学習の進め方をする中で「感動」のある心揺さぶる合唱を創り上げることを学習のねらいとした。

生徒は、第1学年の国語の授業で「名づけられた葉」の詩を学習しており、詩の内容や作者の意図について理解している。詩の一連から三連に進むにしたがって決意を強くしていく内容になっており強弱の工夫がしやすくなっている。

また、mp から徐々にクレシェンドしていく部分やユニゾンから混声三部合唱に分かれるなど構成が分かりやすいため、意見交換しながら全体の技能を高めていくことができる。

5 本題材における具体的な指導の工夫

（1）互いに学び合うための学習活動の工夫

・聴く視点を基に「見て分かること」「聴いて分かること」を意見交換をして演奏に生かす。

（2）思いや意図を表現するための指導の工夫

・ユニゾン、ハーモニー、掛け合いの旋律の重なりを、色分けして視覚的に捉えさせる。

・ffで歌うための身体の使い方を指導したことを基に、試行錯誤しながらmp～ffの表現の技能を身に付けさせる。

6 指導と評価の計画（全5時間扱い）

	ねらい	○学習内容・学習活動【評価】	指導の工夫
第1時	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい強弱表現に関心をもつ。	○三連から成る詩の内容を理解し歌詞の内容と旋律・強弱の変化に関心をもつ。 【観点ア① 観察】	・旋律が掛け合い・ユニゾン・ハーモニーの部分で構成されていることに気付かせる。
第2時	歌詞と旋律や強弱の特徴を知覚・感受する。	○歌詞と旋律の特徴や強弱の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・楽譜にユニゾン、ハーモニ、掛け合いの部分別に色分けする。 ・掛け合いの部分の表現を創意工夫する。 【観点イ① 観察、ワークシート】	・旋律の特徴を確認させる。(ユニゾン、ハーモニ、掛け合いの部分) ・掲示物や板書、拡大楽譜により旋律の掛け合いの部分の歌詞や旋律、強弱の特徴を考えさせる。 ・掛け合いの部分は、問い掛けるように歌うことに気付かせる。
第3時	曲にふさわしい音楽表現の工夫について思いや意図をもつ。	○歌詞と旋律や強弱の特徴を生かした表現を創意工夫し、音楽表現について思いや意図をもつ。 ・ユニゾンの部分の表現を創意工夫する。 【観点イ② 観察、ワークシート】	・歌詞と旋律の特徴に着目させ、ユニゾンの部分は、響きを合わせて、語り掛けるように歌うことに気付かせる。
第4時(本時)	歌詞と旋律、強弱との関わりを理解し、思いや意図を表現する。	○歌詞と旋律・強弱の関わりを考え、mp～ffの表現を創意工夫して、試行錯誤しながら表現する技能を身に付ける。 ・ハーモニーの部分の歌い方を創意工夫する。 【観点ウ① 観察】	・「私だけの」歌詞を一番大切にして、メッセージを伝えるように歌うことに気付かせる。 ・旋律の出だしや跳躍している旋律について、比較して考えさせる。 ・ffで歌うための発声方法について指導する。
第5時	自他の響きを聴きながら、自分の声を全体に調和させて合唱する。	○ハーモニーの部分の表現を工夫する。 ・強弱の変化、旋律の流れを特に意識すると表現で効果的になると思う部分を出し合う。 【観点ウ② ワークシート・観察】	・表現に必要な技能の方法を教え、選択させる。呼吸法、重心のかけ方、発音の仕方などを示す。 ・旋律によって表現に必要な方法を選ばせる。

7 本時の展開（全5時間中の4時間目）

- (1) 本時の目標 歌詞と旋律、強弱との関わりを理解し、思いや意図を表現する。
- (2) 本時の展開

	○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点【評価規準】・(評価方法)
導入	○本時の学習内容を知る ・ユニゾンの旋律の特徴と歌い方に着目して「私も一枚の葉にすぎないけれど 熱い血の樹液をもつ」の部分の歌う。	◇前時までの内容を確認し、本時の目標を板書する。 ◇前時にユニゾン・ハーモニ・掛け合いの部分を確認したこと。ユニゾンの部分の表現で確かめたこと(歌詞を強調する)を振り返らせる。 ◇合唱コンクールのテーマや「魂の合唱を創り上げよう」という第3学年の目標を意識し、歌詞と旋律の特徴を生かして強弱の変化を工夫し、「情熱」が感じられるように思いを込めて表現しよう」を目指すことを確認する。
	ー本時の実現目標ー ① 歌詞と旋律の特徴を捉え、mp～ffの変化を理解して歌おう。 ② 思いや意図を表現するために発声、呼吸法を工夫して歌おう。	

	・男声パートをソプラノ、アルトが聴く。  ・実現目標に沿った表現について意見を發表する。 ○意見交換をした点をまとめ、三部合唱をする。	◇聴く視点を示しておく。 －実現目標に即した意見交換の視点－ ①mp～ff の変化の表現ができていたか ②思いを込めた歌い方で息のスピード、口の開け方、体全体の使い方はどうか 見て分かる視点・・・口の形、息のスピード、顔の表情、背筋の使い方 聴いて分かる視点・・・声の響き（強弱） ◇歌詞の内容や旋律、強弱などを工夫し、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 【観点ウ①】（発言、活動観察）
まとめ	○本時の内容を振り返る。 ・自己の振り返りをする。 －本時の実現目標に即した自己の振り返り項目－ ①歌詞と旋律の特徴を捉えて、mp～ff の表現を工夫できたか。 A：歌詞と旋律の特徴を捉えて、mp～ff の表現に生かし、変化することができた。 B：歌詞と旋律の特徴を捉えて、mp～ff の表現に生かすことができた。 C：歌詞と旋律の特徴や mp～ff の変化の違いを友だちとの意見交換により学ぶことができた。 ②思い（どのように歌いたい）を表現するために発声、呼吸法を工夫することができたか。 A：思いを表現するために発声、呼吸法を十分に工夫することができた。 B：思いを表現するために発声、呼吸法を意識して表現することができた。 C：思いを表現するための発声、呼吸法が理解できた ・本時のまとめと、次時の予告をする。	◇本時の実現目標について、自己の学習状況の振り返りをさせる。 －本時の実現目標に即した自己の振り返り項目－ ①歌詞と旋律の特徴を捉えて、mp～ff の表現を工夫できたか。 A：歌詞と旋律の特徴を捉えて、mp～ff の表現に生かし、変化することができた。 B：歌詞と旋律の特徴を捉えて、mp～ff の表現に生かすことができた。 C：歌詞と旋律の特徴や mp～ff の変化の違いを友だちとの意見交換により学ぶことができた。 ②思い（どのように歌いたい）を表現するために発声、呼吸法を工夫することができたか。 A：思いを表現するために発声、呼吸法を十分に工夫することができた。 B：思いを表現するために発声、呼吸法を意識して表現することができた。 C：思いを表現するための発声、呼吸法が理解できた ◇本時で学習したこと、次時の学習内容を伝える。

8 生徒の変容

・振り返り①では、歌詞と強弱の関係を意識して表現したと回答したAとBの生徒が 90%を越えた。 ・振り返り②では、思いを表現するための表現を工夫できたと回答したAとBの生徒は 80%を越えた。 ・パートリーダーはどのように表現したいか、各自の意見を集約し、全体の技能を高めていくようにするようになった。合唱コンクールへ向け、クラスが気持ちを一つにしてメッセージを込めた合唱づくりができるきっかけとなった。 《生徒の感想より》 ・イメージをもち、喉の開け方、呼吸の仕方を工夫することができるようになった。 ・体の使い方を意識して喉を開けて、歌詞の意味を意識したら ff の表現がしやすくなった。 ・歌詞と強弱記号、歌詞と旋律の関係を理解することができたので、歌詞に思いを乗せて強弱の変化をつけることができた。 ・パートで互いに歌い方を確認し合うことで、自分の歌い方の改善方法を知ることができた。
--

Ⅲ 研究の成果と課題

本研究は、生徒が主体的に表現する力を育成するために、「互いに学び合うための学習活動の工夫」と「思いや意図を表現させるための指導の工夫」を視点として取り組んだ。調査研究を踏まえて課題を分析し、それぞれの視点について指導の工夫を考え、授業実践を通して検証を行った。以下に、成果と課題を挙げる。

1 成果

(1) 互いに学び合うための学習活動の工夫

- ① 生徒相互に学び合う学習活動を行う際、教師が事前に学習の進め方や、意見交換の視点、グループ学習の進め方等を具体的に指導することにより、生徒は学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ② 題材または本時の目標の達成に向けて、意見交換、自己の振り返りを行う際の視点を生徒に具体的に示すことにより、生徒は自ら学習状況を把握することができるようになった。また、意見交換や自己の振り返りを、次の学習活動に生かしながら表現力を高めていくことができるようになった。

(2) 思いや意図を表現させる工夫

- ① 図や楽譜の色分け、言葉の例を掲示物等で可視化することにより、生徒は音楽を形づくっている要素の特徴と、表現に対する具体的なイメージを結び付けることができるようになった。また、表現に必要な技能について指導し、それを生徒に思いや意図と照らし合わせながら試行錯誤して表現を工夫させることにより、生徒が自ら表現したいイメージと技能の双方について考え、話し合う姿が見られるようになった。
- ② 音楽を形づくっている要素の特質を生徒に知覚・感受させ、表現に対する思いや意図をもたせ、必要な技能を身に付け表現させるために、気付かせ、考えさせる発問を工夫することにより、生徒が音楽の構造や曲想等に関心をもち、それらを生かした表現にしようとする姿が見られるようになった。

2 課題

- (1) グループ学習を行う際の具体的な指示の与え方をさらに工夫し、生徒相互に思考、判断させながら表現力を高める活動内容を充実させていく。
- (2) 音楽を形づくっている要素の特質が表れている箇所に着目させるための発問例を他の題材においても作成し、題材や生徒の実態に応じて改善していく。

平成25年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 音 楽

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
千 代 田 区	麴 町 中 学 校	主幹教諭	◎ 小 林 弘 美
文 京 区	第 九 中 学 校	主任教諭	豊 島 由 起 子
青 梅 市	第 三 中 学 校	教 諭	塚 本 恵 子
清 瀬 市	清 瀬 第 三 中 学 校	主任教諭	品 川 真 秀 樹
八 丈 町	大 賀 郷 中 学 校	主任教諭	松 崎 史

◎ 世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部授業力向上課 指導主事 山根 まどか

平成 2 5 年度
教育研究員研究報告書

中学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 2 5 年度第 1 9 3 号〕
平成 2 6 年 3 月

編集・発行	東京都教育庁指導部指導企画課
所在地	東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号	(0 3) 5 3 2 0 - 6 8 3 6
印刷会社	昭和商事株式会社